

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

出生コホート調査参加児へ宛てた手紙が質問票回答率に与える影響 環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」パイロット調査から

和文タイトル:

Postal contact with participating children and its impact on response rates: Japan Environment and Children's Pilot Study.

ユニットセンター(UC)等名: 福岡UC

サブユニットセンター(SUC)名: 産業医科大学SUC

発表雑誌名: Pediatr Int.

年: 2016 月: 12 巻: 58 頁: 1328-1332

筆頭著者名: 千手絢子

所属UC名: 福岡UC

目的:

出生コホート研究において、参加児とのコミュニケーションは参加継続を促すうえで重要であるが、その方法については報告がない。今回我々は、環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査(以下、エコチル調査)」パイロットコホートの一部において、質問票に参加児へ宛てた手紙を同封し、回答率への影響を検討した。

方法:

エコチル調査パイロット調査に参加している105組の親子(児は4~5歳)を対象とし、郵送形式の質問票に児宛ての手紙を同封した。また、過去の回答状況が均等な2群に分け、「児の名前が記載された手紙」、「記載されていない手紙」を送付し、回答率を2群間で比較した。手紙に対する保護者の印象と、質問票へ回答するモチベーションへの影響を、アンケートを用いて調査した。

結果:

質問票への回答率は83.8%で、前回調査と比較し改善しなかった。回答までの期間も短縮しなかった。「児の名前あり」「名前なし」の2群間において、回答率に有意差はなかった。保護者の印象は好意的であったが、質問票に回答するモチベーション増加にはつながらなかった。

考察:(研究の限界を含める)

結論:

4~5歳児に関しては、質問票に手紙を同封しても回答率は改善しない。ただし、児や保護者からは好意的な印象が得られており、長期的な参加率への影響については検討の余地がある。